

か が み

【中学年 1 - 5】

導入部分に特に配慮した取組み

- (1) **主題名** 正直って気持ちいい [1 - 5]
- (2) **ねらい** 正直にかけひななく、明るく生活しようとする態度を育てる。
- (3) **資料名** 「かがみ」
- (4) **授業の展開例**

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 「うそをついた経験」をきっかけに、自分の生活を振り返る。	これまでに、つい小さなうそをついてしまったことはありませんか。 (先生は君たちくらいの頃、実はこんなうそをついたことがあります。)	深刻な雰囲気になったり、互いの過ちを暴き立てることのないよう、ありがちな例を示しておく。(教師の体験談など) 自分の体験を話した児童については、受容的に接する。
展開	2 主人公の心に沿って、資料(前半)を読む。	「いけないと分かっていてもアクセサリーを買ってしまったとき」のわたしの気持ちはどうでしょう。 ・買えてうれしい。 ・約束を破ってしまった。 「お母さんにアクセサリーについてたずねられたとき」のわたしの気持ちはどうでしょう。 ・どうしよう、正直に言おうかな。 ・断ればよかったです。 ・うそなんかつかなければよかったです。	最終場面(次の日の朝)は伏せ、主人公がお母さんに「ごめんなさい」という部分までをとりあげる。 思いを共有できるよう、要所要所で子どもたちの反応を取り上げる。
開拓	3 資料の後半を読んで主人公の変容について考える。	次の日の鏡の中の私の顔は、どんな顔だったでしょうか。 ・さわやかな顔、すっきりした笑顔。 ・正直に言ってよかったです。	正直であることは、他人のためではなく、自己を明るく前向きにしていくことなのだとということを押さえる。
	4 自分たちの生活を振り返り、正直さについて考える。	どんな言葉が、「正直な心」を引き出してくれるでしょう。 ・「ごめんなさい」 ・「ありがとう」 ・「やっぱりいけないよ」 ・「すごいね」「よかったです」	「心のノート」P30を例として示し、自分なりに考えさせる。
終末	5 学んだことを確かめる。	今日の学習で大切なと思ったことを、自分の言葉で書きましょう。	ワークシート(道徳ノート)に自分の言葉で表現できるよう助言する。

か が み

毎朝かがみを見るわたし。

「おはよう」と声をかけると

「おはよう」とにっこりわらってくれる。

かがみの中のわたしは、いろんな顔をしている。

その日、楽しみにしていることがあるときは、にこにこ顔。

前の日、つらいことがあった時は、さびしい顔。

今日のわたしは、どんな顔？

わたしの書いた詩が、掲示板に張り出された。
その日はうれしくて、家に帰つたらすぐ鏡の前にとんでいった。

「よかつたね。」

「よかつたね。」

鏡の中のわたしは、とってもいい顔だった。

次の日のこと。なかよしの洋子ちゃんと、お店に行つた。

「ねえ、これ、これ。」

洋子ちゃんが指さしたのは、とってもきれいなアクセサリー。

今持つているお金は、「ノートを買つから」といつておかあさんにもひつ

た二百円。

「二つあるよ。ねえねえ、いつしょに買おつひ。」

「うん。」

つい、うなずいてしまつた。

家に帰るとすぐ、アクセサリーを、鏡に映してみた。

「あら、きれいなアクセサリーね。どうしたの？」

お母さんの声。わたしはどきりとした。

「あ、これ……洋子ちゃんにもらつたの。」

「あら、そのな。……それで、ノートは買つたの？」

「うん……。」

つい、うそをついてしまつた。

「あとで、洋子ちゃんのお母さんにお礼を言わなくちゃね。」

お母さんは、につこり笑つて台所にもどつていつた。
「わごわ鏡をのぞくと、とっても悲しいわたしの顔……。

「うはん、できたわよ。
お母さんによばれて、台所へ行ひとしたわたしは、もう一度鏡を見た。
中のわたしの顔……。なみだが出そうになつて、思わず口をとじてしまつた。

しばらくして田をあけると、鏡の中のわたしの後ろに、いつの間にかお母さんのやさしい笑顔があつた。
「おかあさん、ごめんなさい……。
わたしは、鏡の前で、いっぱい泣いた。

その次の朝。
鏡を見た。
笑つてゐる、わたしの顔。
「おはよう。」
わたしは大きな声で、わたしによびかけた。

活用に生かすための実践報告

「かがみ」

1 主題の設定

- ・この資料は、「つい嘘をついてごまかしてしまう」というだれにでもある日常的な課題を取り上げたものである。「嘘をついてはいけない」ということは児童は誰しもが知っていることだが、道徳の時間の授業で改めてそれを取り上げる際には、むしろ正直であることによってもたらされる望ましい生活について気付かせ、その価値を共有していくことが重要であると考える。
- ・この資料では、心を映すものとして「鏡」を登場させているが、自分の心が周囲にどう映っているのか、あるいは自分自身の心をどう見つめていくのか、という両面から考えていくことが可能であると考える。

2 指導過程の工夫

- ・「正直である」ことを改めて生活の場に求めることは意外に難しいものだが、「心のノート」小学校3・4年のP28～31はそのことを具体的に考え、行動化していく上でのヒントが多くある。本時の展開例ではP30「正直な人でいるためのひけつ -よく使う言葉から考えてみよう-」を取り上げているが、他のページの活用も可能である。

3 発問の工夫

- ・中心発問は「翌朝の鏡に映る顔（表情）」を問うものとした。「正直」がもたらす心の解放や浄化を、子どもたちがそれぞれの言葉で具体的にイメージすることが重要だと考えたからである。
- ・「嘘」の罪悪性に対する認識が今一つ不足していると感じられる場合は、「もし、

ごめんなさいと言えなかったら、次の日の鏡の中にはどんなわたしの顔があったでしょうか。」といった発問を追加することも考えられる。

4 児童の反応（授業後の感想）

- ・正直なことを言ったら、絶対に涙が出る。この話の中の「わたし」もそうだし、うそをついているときは涙は出ないのに、正直に言ったときに涙が出る。その涙はいい涙（正直な涙）だと思う。
- ・「すごいね」「がんばれ」と友だちをほめたり、応援したりする言葉を普段から言い合えば、友だちに対して正直な心をもてると思う。

5 実践者からの一言

- ・取り上げるに当たっての留意点としては、明るい雰囲気の中で授業を始めることである。「嘘」や「ごまかし」が正しいと思っている子どもはまずいない。しかし、現実には多くの子どもがそれを経験している。中には友だちの嘘のせいで深く傷ついた体験を持つ児童がいるかもしれない。逆に、友だちの過去の嘘を暴き立てようとする児童が出てくるかもしれない。そういう事態に陥らないためにも、導入時の雰囲気作りが重要である。
- ・展開例では、教師自身が自分の体験を話し、雰囲気作りをするとしているが、それぞれの学級の実態や指導方法に応じ、工夫していく必要がある。

（長江小学校 安松洋佳）